

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期網走市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道網走市

3 地域再生計画の区域

北海道網走市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は、1980年の国勢調査結果44,777人をピークに、2000年代には減少局面に入っており、住民基本台帳によると2024年12月末時点で32,188人となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口は21,159人まで減少する見込みである。

年齢3区分人口では、15歳から64歳までの生産年齢人口が1990年を、15歳未満の年少人口が1980年をピークに減少傾向である一方で、65歳以上の老年人口は現在も増加が継続しており、2024年12月末においては、年少人口3,070人、生産年齢人口18,113人、老年人口11,005人となっている。社人研の推計では、2020年に老年人口が11,289人、2050年には高齢化率が42.8%でそれぞれピークを迎えるとされている。

自然動態をみると、出生数は1995年の414人をピークに減少し、2023年には145人となっている。その一方で、死亡数は2023年には479人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲334人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2008年には転出者（1,997人）が転入者（2,504人）を上回る社会減（▲507人）をピークに転出超過による社会減少が続いており、2023年には転入者（1,651人）が転出者（1,936人）を上回る社会減（▲285人）であった。

また、合計特殊出生率については、2023年に1.14となっており、県平均を上回っているものの、全国平均には達していない。

一方で、本市は東京農業大学生物産業学部や日本体育大学附属高等支援学校の存在により、10歳代後半から20歳代前半の人口が比較的多く、全国・全道の人口構造とは異なる3つ目の山をもつことが特長である。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等により住民生活への様々な影響が懸念されることが本市における課題である。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地方経済や社会に深刻な影響を与えた一方、デジタル技術やオンラインの活用が多方面で進められ、社会情勢は大きく変化している。

このような中で、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできるまちづくりには、本市の強みや特徴を活かした施策に、デジタル技術の活用やグリーントランスフォーメーション（GX）の推進により社会課題の解決を図りながら、持続可能な地域社会を構築していく必要がある。

このため、次の事項を本計画期間における基本目標とする。

- ・基本目標1 誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出
- ・基本目標2 地域特性を活かした、交流・関係人口の拡大
- ・基本目標3 希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり
- ・基本目標4 地域を支える人材の育成
- ・基本目標5 安全・安心で持続可能な地域づくり

【数値目標】

5-2の①に掲げる事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	市内事業所の従業員数	14,426人	14,000人	基本目標1
イ	観光入込客数	144万人/年	162万人/年	基本目標2
ウ	合計特殊出生率	1.14	1.31	基本目標3

エ	全国学力調査の 全国平均正答率との差	小学生 △1.2ポイント 中学生 △2.3ポイント	0ポイント	基本目標 4
	全国体力調査の 全国平均点との差	小5 男子 1.8ポイント 小5 女子 2.5ポイント 中2 男子 0.6ポイント 中2 女子 0.7ポイント	0ポイント (全国平均以上 を維持)	
オ	健康寿命	男性 79.50歳 女性 85.00歳	男性 80.38歳 女性 85.32歳	基本目標 5
	温室効果ガス排出 削減量	59,105t-CO ₂	218,436t-CO ₂	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期網走市まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出事業
- イ 地域特性を活かした、交流・関係人口の拡大事業
- ウ 希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり事業
- エ 地域を支える人材の育成事業
- オ 安全・安心で持続可能な地域づくり事業

② 事業の内容

- ア 誰もが安心して働くための産業振興と雇用の場の創出事業

網走市の強みである一次産業の振興策に積極的・継続的に取り組むとともに、付加価値を高める産業の創出により、社会経済環境の変化にも

耐え得る産業基盤の構築を図る事業

【具体的な事業】

- ・安定した農林水産基盤の確立
- ・地場産品の販路拡大に向けた支援
- ・社会基盤を支える人材の確保 等

イ 地域特性を活かした交流・関係人口の拡大事業

網走市の自然・文化・歴史・食などの豊かな地域資源や地域特性を活かした、魅力あるコンテンツを開発や提供、情報発信力を強化するとともに、スポーツ、芸術文化などの合宿や大会の誘致に取り組み国内外からの交流・関係人口の拡大を図る事業

【具体的な事業】

- ・観光資源の磨き上げと開発による魅力向上
- ・スポーツ・芸術文化を切り口とした交流・関係人口の拡大
- ・広域連携による国外観光プロモーションの展開 等

ウ 希望に応じて結婚・出産・子育てができる環境づくり事業

出産・子育てにかかる経済的・精神的負担の軽減などに取り組み、子育て世代が希望に応じ、安心して結婚・妊娠・出産・子育てができる環境の充実を図る事業

【具体的な事業】

- ・地域と連携した周産期・小児医療提供体制の充実
- ・妊娠期からの切れ目のない支援
- ・こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革 等

エ 地域を支える人材の育成事業

関係機関・団体と連携し、地域課題の解決とこれからの網走市を担う人材を育成するとともに、子どもたちの豊かな人間性、たくましく生きていくための健康や体力を育む教育の充実を図る事業

【具体的な事業】

- ・地元に着する人材の確保
- ・多様な組織との連携による地域課題への取り組み
- ・子どもの学力向上や体力の向上 等

オ 安全・安心で持続可能な地域づくり

誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを進めるため、市民の安全・安心な居住空間・交通空間の確保に努めるとともに、住み慣れた地域で健康に暮らし続けられる取り組みを進める事業

【具体的な事業】

- ・ 持続可能な公共交通ネットワークの形成
- ・ 移動型医療サービスの取り組み
- ・ 地域コミュニティ活動の推進 等

※なお、詳細は第3期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

653,812千円（2025年度～2027年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に、産学官金労等で組織する「網走市選択する未来会議」で進捗状況を把握するとともに、取り組みの検証・改善を行う。

また、検証結果等について市公式サイトにて公表する。

⑥ 事業実施期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで